

**〔特集〕 精神科診療における臨床評価尺度・検査を極める
—エキスパートによる実践的活用法**

企画：『精神医学』編集委員会

編集：数井裕光（高知大学医学部神経精神科学講座）

精神疾患で認められる精神症状，認知機能，生活機能などを評価するために，さまざまな評価尺度や心理検査などが開発されており，これらの研究的背景をふまえて，患者や家族に対して適時・適切に活用して診療を進めることが求められる。そこで，各疾患のエキスパートが，複数ある評価尺度や検査の中からどれを選択し，何を目的として，どのようなタイミングで使用しているのか，実践的な内容を解説する。

【主な目次】**序章：心を測る，その前に—臨床評価・検査実施の留意点****第Ⅰ章「疾患横断的な基本的な評価尺度・検査」：**知能検査／全般的尺度／自尊心・自己効力感・自己肯定感尺度・逆境体験**第Ⅱ章「疾患別の評価尺度・検査」：**神経発達症群／統合失調症スペクトラム障害及び他の精神症群／双極症及び関連症群／抑うつ症群／不安症群／強迫症及び関連症群／心的外傷及びストレス因関連症群／解離症群／身体症状症及び関連症群／食行動及び摂食症群／睡眠-覚醒障害群／性機能不全群・性別違和／秩序破壊的・衝動制御・素行症群／物質関連症及び嗜癖症群／神経認知障害群／医薬品誘発性運動症群及び他の医薬品有害作用**第Ⅲ章「臨床場面別の活用法」：**早期の統合失調症疑いの症例（精神病罹患危険状態）／周産期メンタルヘルス診療／睡眠障害の診療／コンサルテーション・リエゾン／こどもの診療／認知症診療／特発性正常圧水頭症に対するCSFタッピングテスト／電気けいれん療法の効果と有害事象判定／産業メンタルヘルス／成年後見制度における鑑定書・診断書作成／自動車運転能力評価

2024年5月中旬発行 定価：5,610円（本体5,100円＋税10%）

（編集頁の都合により掲載論文が変更になることがあります。編集室）